

学校評議員会の実施報告書

岐阜県立関特別支援学校

校長 岩塚 政司

学校住所 関市桐ヶ丘一丁目 2 番地

電話 (0575) 22-4238

- 1 会議の名称 岐阜県立関特別支援学校 学校評議員会
- 2 会議の構成 【 学校評議員 】
- | | |
|--------|-----------------------------|
| 澤井 基光 | 関市社会福祉協議会会長 |
| 沼田 明仁 | 関市民生委員 |
| 岡田 泰子 | 中部学院大学短期大学部教授 |
| 大野 美奈子 | 社会福祉法人平成会レインボーハートフル事業所管理責任者 |
- (今回欠席)
- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 中島 貴弘 | Man to Man Animo 株式会社プロジェクトマネージャー |
|-------|-----------------------------------|
- 【学校関係者評価委員】
- | | |
|--------|----------|
| 日比野 恵美 | P T A 会長 |
|--------|----------|
- 【 学校職員 】
- | | | | |
|-------|------|-------|-------|
| 岩塚 政司 | 校長 | 熊崎 律弥 | 小学部主事 |
| 福富 茂美 | 教頭 | 杉本 雅晴 | 中学部主事 |
| 下川 正利 | 事務部長 | 乙津真由美 | 高等部主事 |
| 井原 誠 | 教務主任 | | |
- 3 会議の目的 学校運営について地域住民や学識経験者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた活力ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成 29 年 1 月 30 日 (月) 10 : 00 ~ 12 : 30
岐阜県立関特別支援学校 小会議室
会の内容 (主な議題等)
- (1) 校長挨拶
 - (2) 平成 28 年度 1 年間の報告等について
 - (3) 卒業生の進路について
 - (4) 平成 28 年度の総括と反省 (学校評価) について
 - (5) その他
- 終了後 学校給食試食
- 5 会議の概要
校長挨拶
本日はお忙しいところありがとうございます。第 2 回学校評議員会ということで、1 年間の取組の報告、学校評価についてお伝えいたします。来年度に向けてご意見をいただければと思います。

テーマ 1 平成 28 年度 1 年間の報告等について (卒業生の進路についてを含む)

(1) 本年度の取組（学校の現状と今後）

- ・現在の最大の課題として、児童生徒数の急激な減少傾向ということがあげられる。これに対して、昨年度より病弱児の受入れ、中濃特別支援学校分教室の設置ということで対応している。当校高等部に専門学科を設置することについては不透明な状況である。
- ・本年度の取組としては3つの視点がある。
 - ① 明るく、安心・安全な環境のために
設備のトラブル等に対して迅速に対応するなど清潔で安全な校舎づくり、中濃特別支援学校分教室と連携を密にした学校運営、防災意識の向上や地域と連携した警報等への対応等に取り組んだ。学校だよりの発行や授業参観週間の実施等、積極的な情報提供にも心掛けた。
 - ② 意欲的に学ぶために
児童生徒の実態に合わせ、合理的配慮を踏まえた指導・支援、全校研究による指導内容や指導方法の工夫、家庭と連携したICT機器の積極的な活用、幅広い障がいに対応できる指導力の向上等に取り組んだ。
 - ③ 社会参加・自立のために
行事での販売活動や観劇等体験活動の充実、居住地校交流の推進と学校間交流の充実、進路に関わる情報提供の工夫や主権者教育の実施、外部への積極的な啓発と地域の教育資源の活用等に取り組んだ。
- ・今後の課題としては、児童生徒数の減少に対する対応、中濃特別支援学校と連携しながら知的障がい受け入れに向けた対応、施設・設備の計画的修繕があげられる。また、ICT教育の充実、共生社会に向けた地域への理解・啓発についてもさらに取り組んでいく必要がある。

質問1 合理的配慮とはどのようなことか。

学校 障がいのある子どもに対して必要かつ適当な配慮を行うことで、障がいのない子どもと一緒に学習ができるようにすることである。ただし、エレベーターを設置してほしいなど財政面等であまりにも過度な負担を課すことは該当しない。

(2) 小学部の成果と課題

- ・成果としては、体験的な学習を重視するなど児童が意欲的に活動するための取組、学習集団の工夫や交流の推進等による社会性や豊かな人間性を育てる取組、保護者や医療、福祉等の関係諸機関と連携を深めた取組があげられる。
- ・課題としては、重度重複化、多様化への対応、少人数化への対応がある。

(3) 中学部の成果と課題

- ・成果としては、教育課程別の懇談等により保護者の思いを教育活動に反映させる、集団活動の工夫、綿密な情報交換を行いながら安心・安全な学校生活に留意したこと、合同授業等を実施することで生徒が将来を見据えたり、自己を見つめたりしたことなどがあげられる。
- ・課題としては、学校生活の充実を通して集団性を育むこと、綿密な情報交換と複線系による「報・連・相」の形成、生徒の将来を見据えた関係者との取組等がある。

(4) 高等部の成果と課題

- ・成果としては、AB類型では縦割りの活動を有効に行ったことや主権者教育の実施、C類型では集団と個別の学習をバランスよく設定したことや関商工高等学校との共同学習の実施、D類型では実態に応じたグループ編制、人との関りを重視した取組があげられる。本年度の3年生の進路については、就職が1名、福祉サービス事業所を利用するものが6名である。
- ・課題としては、少人数化に対応した行事の工夫、病弱児への対応に組織的に取り組むこと、主権者教育を広げていくことなどがある。

(5) 寄宿舎の成果と課題

- ・成果としては、定期的に支援の見直しをしたことで舎生の自立心の育成につながったこと、舎生の体調について情報共有したり防災意識を高めたりと安心・安全を守るための取組、互いに認め合い、協力できる態度の育成等があげられる。
- ・課題としては、舎生数減少による集団活動の在り方、職員の支援体制づくり等がある。

意見1 現在、グループホームの運営を行っているが、自立を考えると卒業後すぐにグループホームに入った方がよい場合が多い。学校には社会に出た時に適応できる教育をしてほしい。卒業してから買い物の仕方やトイレのことなど教えなければならないことがある。特に、一般就労を目指すならトイレのことなど身辺自立を身に付けることに力を入れてほしい。

テーマ2 平成28年度の総括と反省（学校評価）について

- (1) 保護者対象アンケート・生徒対象アンケート集計結果（別紙）
保護者対象アンケートについては概ね昨年度より評価が上がっている。
生徒対象アンケートは、5名の生徒が回答したため、1名でも否定的な評価をすれば20%となる。「いじめや差別を許さない」等の重要な項目は100%肯定的な評価となっている。
- (2) 自校評価・学校関係者評価について
- ①学習活動・家庭や地域等との連携（取組状況・実践内容）
- ・各学級、学部や分掌から通信や案内等を発信すると同時に、学校だより等でも積極的に情報発信に努めた。
 - ・学年を超えた多様な学習グループ編成や児童生徒の実態に応じた学習グループ編成ができた。
 - ・7月「保護者・生徒対象アンケート」、11月の授業参観週間に「保護者対象の授業アンケート」を実施した。
 - ・他校とのたくさんの交流学习や共同学習に意欲的に取り組むことができた。
 - ・ICTのプロジェクトチームの協力で、環境整備や職員・保護者の研修に取り組んだ。
- ②安心・安全な学校生活（取組状況・実践内容）
- ・毎月1回、全職員により校舎・設備の安全点検や清掃を行った。
 - ・学校全体で年3回「命を守る訓練」を実施した。寄宿舎生や児童生徒の実態に応じた「命を守る訓練」を実施した。職員の救急法研修を実施した。
 - ・不審者侵入を未然に防ぐための環境整備や侵入時の対応訓練に取り組んだ。催涙スプレーや刺股等の補強をした。
 - ・専門医やPTを講師として職員の研修を実施した。
 - ・薬物乱用防止教室を実施した。
 - ・スクールカウンセラーと相談しながら、寄宿舎の生徒指導に取り組んだ。
 - ・児童生徒会を中心に「関特ニコニコキャンペーン」を実施した。
- ③キャリア教育
- ・すべての保護者を対象に総合支援法に関する研修や進路行事への参加、事業所見学を実施した。保護者説明会も2度実施した。
 - ・事務職や介護職、流通、コンピューター関連事業所、居住地の市役所と連携し進路体験実習を行った。
 - ・一般教養や作文等の補習指導、面接指導、模擬試験等を行うなど、個別の進路指導を行った。
 - ・居住地の福祉課等の協力を得て、移行支援会議の充実に努めた。
 - ・年間を通じて、研修部を中心に学部間の連携を図りながら、児童生徒の将来を見通した支援のあり方を研究した。

テーマ3 関特別支援学校についての意見等

質問2 病弱というとのどの程度なのか。やはりみんな車いすなのか。

学校 車いすにのっているが歩ける子が多い。しかし、長く歩くと疲れてしまうなど配慮を要する。

意見2 個に対する支援は素晴らしいが、社会へ出ても対応できるかが大切である。学校のように公的に守られているところから、そうでないところへ行くのは、障がいのある子にとっては大変である。地域や社会全体で守られることが当たり前になればよい。障がいがあっても支え合えるような社会になるとよい。そのためにも、障がいのある人が地域へ、社会へ出ていってほしいし、社会へどんどん発信して行ってほしい。

- 意見3 職員が児童生徒一人一人に細かく配慮している。しかし、卒業後どうするかは大きな問題。学校と社会の間にワンクッションあるとよい。学校自体が卒業後のワンクッションの役割を果たせるとよいのではないかと。職業訓練などにも踏み込めればよい。
- 学校 制度としては、就労移行支援というのがあってワンクッションの役割を果たしている。当校は卒業後、福祉サービス事業所を利用する生徒が多いが、十分整っていない現状がある。
- 意見4 「学校だより」を毎月いただいて町内に回している。中身が充実してきて、読めばイメージが彷彿してくる内容になっている。しかし、一般の人に全部分かってもらうことは難しい。一般の人が特別支援学校に興味をもってもらえるチャンスになるとよい。回覧するとき、なるべく読んでもらうように回覧も単独でまわすようにしているが、戻ってくるのが早い。もっとポイントを絞って地域の方が興味をもちやすいようなものがあるとよいのではないかと。例えば、一人の生徒に着目して記載し、学校理解につながるような記事があればよい。理解のしやすさということを考えていただきたい。
- 質問3 下有知小学校と交流しているが、南ヶ丘小学校とは交流しないのか。
- 学校 南ヶ丘小学校は中濃特別支援学校と交流している。当校は歴史が古く、開校当時、南ヶ丘小学校はまだできていなかったということもある。
- 質問4 高等学校は関高等学校と交流をしているが、近くの中部学院大学と交流はしないのか。
- 学校 小学部では、短期大学部の学生と一緒に作品作りをしている。高等部には学生ボランティアが授業に入っていた。
- 質問5 ICTの研修のなかで出てきた「視線入力スイッチ」とは何か。
- 学校 パソコンのマウスの代わりに、両目の視線だけで画面上のポイントを動かし、瞬きや注視するだけでクリックできる装置のことである。
- 意見5 お母さん方が日々子どもさんと向き合われるなか、一人一人違う悩みを抱えていると感じられる。PTAの研修会の中で、視線入力スイッチというものがあると知ることで新たな希望が生まれ、よい形で波及できるようなチャンスはあると思う。PTAで年間3回も発表をされたことは、親同士が連携を深めるよいチャンスになったと思う。親同士が連携することで、もっといろいろなことが共有できるのではないだろうか。また、たくさんの細やかな取組がなされているが、もっと重点を絞って次につなげることも大切だと思う。
- 意見6 教育課程A、B、Cの違いなどよく分かった。卒業生の方の支援をしながら、どこまで教育されているのか分からないことがあった。支援をするなかで、買い物で自分の持っている金額より高い商品をレジに持っていかれることがある。学校でどこまで教えているのか分からなかったが、今日話を伺ってよく分かった。ぜひ、職員にも伝えていきたい。また、保護者の方が施設に見学に来られることがあるが、いろいろな方にどんどん見学に来ていただきたい。作業などを見ていただき、利用者から話も聞いてもらいたいと思っている。そして保護者の方と連携をとっていきたい。（施設では）喫茶店もやっているが、一般の方に来てもらうのはなかなか難しい。利用者が小・中学校へ講演に出掛けることもあるので、学校教育の段階で小学校や中学校とどんどん交流してほしい。

6 会議のまとめ（校長より）

本日は長時間ありがとうございました。私事ですが3月で定年退職となります。評議員は県の規定では3年までとなっています。支障がなければ来年度も引き続けてやっていただければと思います。本日お聞きした意見は次の校長に引き継ぎ、次年度に生かせるようにしていきます。